

産業教育ワーキンググループ（第 3 回）資料

福岡県立福岡農業高等学校長

1 はじめに

本校は本年度で創立 137 年目を迎え、設置学科は都市園芸科、環境活用科、食品科学科及び生活デザイン科（家庭科）、1 学年 4 学科 4 クラスの学校である。また、全国唯一の全日制農業専攻科（2 年）も併置している。平成 26 年度から「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」（SPH）の研究指定を受け、主に都市園芸科、専攻科で調査研究を行っている。本日の資料は、都市園芸科の SPH についてまとめたものである。

2 教科「農業」を通じて育成すべき資質・能力について。

本校の SPH は、都市部における農業高校の在り方や都市型農業（アーバンファーム）を担う人材（アグリスペシャリスト）の育成について調査研究するもので、研究期間は平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間となっている。研究の実際としては、フロンティア学習、マネジメント学習、スキルアップ学習及び実用的資格取得の 4 つの研究テーマ（別紙）からなり、高校と専攻科、計 5 年間での生徒の変容等を研究するものである。

研究 1 年目は、これまでの評価規準、評価方法で評価してきたが、一部、産業人として必要な、挨拶、マナー、気配り、協調性、積極性、責任感、規律、忍耐力、相談、記録、コミュニケーション能力など、専門に関するものとして、安全性、スピード、丁寧さ、正確さ、集中力、コスト意識、商品への興味など、研究課題の解明のための多様な観点からの評価も実施してきた。

3 これまでの実験・実習などの実践的、体験的な学習活動の成果やアクティブラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視する指導等の改善充実のあり方について

（1）フロンティア学習を通して（高度な栽培技術の習得等）

LED 照明装置による水耕栽培実験（植物工場）、バイオテクノロジーに関する実験、液体クロマトグラフによる分析実験、国際次世代農業 EXPO 視察、九州沖縄農業研究センター見学等を通して、「主体性、思考力、判断力、創造力、興味・関心、課題発見力等」を育成する。

（2）マネジメント学習を通して（実践的な経営能力の習得）

インターンシップ（夏・冬 2 回実施）、6 次産業化現地視察研修、農業生産法人視察研修等を通して「主体性、実行力、創造力、規律性、コミュニケーション能力等」を育成する。

（3）スキルアップ学習を通して（食の 6 次産業化プロデューサー、GAP、社会人講話）

食の 6 次産業化プロデューサー、GAP 取得、社会人講師による講話等（企業の求める人材、世界の食糧事情、日本の農業情勢、農産物の流通・販売、観光農園の現状、イチゴ栽培の現状、新商品開発、地域特産物と地域おこし）を通して「主体性、興味・関心、創造力、課題解決力、状況把握力、柔軟性、コミュニケーション能力等」を育成する。

（4）実用的資格取得を通して

食の 6 次産業化プロデューサー認証（レベル 1 は 25 名、レベル 2 は 8 名）

（5）課題

基礎学力の不足、コミュニケーション能力の不足、規範意識や倫理観の育成などがある。

4 国家資格や各種検定、研究発表会や競技会等の活用を含めた、資質・能力の育成のために重視すべき評価の在り方について

研究2年目の取組として、具体的には進路記録ノート「農業教育キャリアデザインノート」を作成・開発中である。特に、留意している点は「生徒が何を学んだか」だけでなく、「生徒はどのような力が身に付いたか」、また「教師はどのように教えていくのか」といったことである。

農業教育は農業に必要な知識と技術の習得だけでなく、人間と生き物との関係や自然環境など、幅広い分野や領域から構成されている。評価に対する正しい認識がより一層求められているといってもよい。

○農業教育キャリアデザインノートとは

社会人基礎力の考え方をもとに、各学習活動に「3つの能力、12の要素」を取り入れ、各学年毎、各学期毎に自らの学習の成果や課題を記録するための進路ノート、また、教師は「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4観点からそれぞれ評価する記録簿の内容となっている。生徒はこのノートを3年間または5年間使用するものである。平成28年度から実際に試行し、最終的には本研究の研究成果物としたい。

○社会人基礎力とは

職場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力として、経済産業省が定義した3つの能力、12の要素のこと。3つの要素「前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）」、12の要素「主体性、働きかけ力、実行力、創造力、計画力、課題発見力、状況把握力、傾聴力、柔軟性、発信力、規律性、ストレスコントロール」のこと。

5 必要な支援・条件整備等について

本県では、2～3年前から教員採用が徐々に増加しているが、依然として欠員が多い状況であり、全ての教育活動に様々な支障を来している。また、施設・設備の老朽化により指導も困っている。「教育は人なり」と言われるとおり、教員の指導力の向上は急務であり、その対策が急がれる。そのため、教育予算の確保を是非お願いしたい。

6 農業教育に対する思い

農業教育では「為すことによって学ぶ」学習指導が基本であり、学習理念と捉えることもできる。具体的な学習方法としては、「プロジェクト学習」が重要である。プロジェクト学習には様々な方法があり、各学校の状況に応じて、適切な指導方法を選択することが大切である。

そして、基礎・基本を重視し（書く指導、発表する指導）、何度も繰り返し学習し、しっかりとした実践力を身に付け、そして、学んだことを広く活用することが重要と考える。

特に、オンリーワンの教育（一校一品、一校一宝、一人一技）が農業教育には重要ではないか。オンリーワンの教育を通して、生徒は自らの学習の課題を発見し、その解決にむけて自らが主体的に学習する姿勢が生まれると考える。

7 その他（別紙）

- (1) 九州国立博物館10周年イベントに参加して（学校発表会）
- (2) 食品科学科の新商品開発について
- (3) 生活デザイン科のファッションショーについて

平成27年度 福岡県立福岡農業高等学校
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業概要

都市園芸に関する専門的な技能と経営感覚を
身につけたアグリスペシャリストの育成

農業及び農業関連産業のプロフェッショナル育成

栽培管理と施設管理に関する先端的な技術及び技能を習得し、活用できる人材

都市型農業を経営するために実践的な経営感覚をもった人材

消費者に対し、商品情報を発信したり、ニーズを分析し、商品価値を高める能力を持った人材

産業現場で、必要な資格を有し、活用できる人材

フロンティア
学習

マネジメント
学習

スキルアップ
学習

実用的
資格取得

カリキュラム開発

連携・協力

専攻科・本科
講義聴講
共同研究

専攻科・本科 プラクティカルトレーニング

本科 外部講師による特別授業

関係機関と連携し、先端技術を導入した栽培実験・実習により、栽培管理に関する技術を体験的、理論的に学ぶ。

現場実習や現地視察研修から、自立した農業経営に必要な実践的な経営感覚を身につける。

農業の6次産業化を推進するために資格取得や栽培技術の向上と付加価値を高めるための技術や能力を実践的に学ぶ。

生徒の希望進路を実現するため、必要とされる基礎的な知識・技術を学習し、高度な資格取得に挑戦する。

専攻科・本科連携
専攻科・大学連携

農業生産者・企業との連携

社会人講師の活用

学校設定科目による学習

高度な栽培
技術の習得

実践的な
経営能力の習得

コミュニケーション
能力の習得

食の6次産業化
プロデューサー
アロマテラピー

他の農業学科への成果の普及(カリキュラム開発)
普通高校・総合学科への成果の普及(ものづくりの支援)
小・中学校に対する支援(農業体験学習の指導)



九州大学

九州沖縄農業研究センター

最先端の栽培管理技術指導
特色ある教育課程の研究
共同調査・研究の助言

研究成果物の商品化、販売会共同実施



農業生産者

福岡県農政部

J A

直売所

関係企業

栽培に関する管理技術の指導と経営戦略指導及び助言

栽培・インターンシップに係る調査・研究指導及び助言

共同栽培研究、販売実習

